

講義日程・時間

8月23日 火曜日

1 限目

1. 授業科目名	PISA型学力と未来の教師像		
2. 担当教員名	藤澤 健一		
3. 授業の概要	<p>この講義では、PISA、ならびにキー・コンピテンシーについての概略を提示する。具体的には、PISAにおける出題傾向、国別比較を概説する。そのうえでPISA型学力とはなにかについて理解を深める。それらの知見に依拠しつつ、日本社会における教師像の未来について、国際比較の観点から実践的に考察する。グループワークを一部に取り入れ、受講者の相互作用を醸成する。</p>		
4. 到達目標	<p>PISA型学力とはなにかの理解を深めることを通じ、これからの教師の役割と課題を実践的に考察できるようになる。</p>		
5. 授業内容・授業方法等	コマ	授業内容	授業方法
	1	<p>PISAとはなにか PISAの問題を実際に問いてみましょう PISAの国別比較 PISA型学力とは「キー・コンピテンシー」 避けられない未来の条件 未来の教師像 (順序、内容を変更する場合があります)</p>	<p>講義を中心とし、一部にグループ・ワークを導入する。</p>
6. テキスト・参考文献等	<p>ドミニク・S. ライチェンほか『キー・コンピテンシー』明石書店、2006年 立田慶裕『キー・コンピテンシーの実践』明石書店、2014年</p>		
7. 成績、評価方法・基準	<p>講義の最後に試験問題を提示する。グループ・ワークをふまえ、当該問題への回答をレポートとして講義時間中に提出する。</p>		
8・特記事項			

講義日程・時間	
8月 23 日 火 曜 日	2 限 目

1. 授業科目名	社会教育実践にみる教育的理念		
2. 担当教員名	農中 至		
3. 授業の概要	<p>社会構造の変容(産炭地から旧産炭地化への過程など)にともなって子ども・おとなの教育/学習/発達環境にどのような変化が生じるのかを踏まえ、身近な地域社会において求められる取り組み、そしてそれらの活動にはいかなる教育的理念が基底に据えられる必要があるのかを検討します。ゼロ年代から10年代にかけての日本社会の変化とも関連付けながら、これからの地域・子ども・おとな理解に新しい視点をつけくわえることを目指し、今後の学校・幼稚園・保育園と社会教育の望ましい関係づくりを展望します。</p>		
4. 到達目標	<p>地域社会の変動過程を適切に捉え、社会教育実践における教育的理念の可能性に関する理解を深める。また、社会教育実践の実現可能性について自らの現場の実情を踏まえ、批判的に検討できるようになる。</p>		
5. 授業内容・授業方法等	コマ	授業内容	授業方法
	1	<p>子ども・若者の生活空間・質の変化 おとな・高齢者の労働・福祉の変容 地域社会・暮らしの再編 学校外における発達・学び理解はなぜ必要か 社会教育実践の基底に据えるべきもの 教師にとって地域・社会教育理解が必要な理由 20年代の社会教育・関係施設と学校のあり方</p>	<p>講義・グループワーク</p>
6. テキスト・参考文献等	<p>佐藤一子編『地域学習の創造 地域再生への学びを拓く』東京大学出版会、2015 津田英二・久井英輔・鈴木眞理編著『講座 転形期の社会教育VI 社会教育・生涯学習研究のすすめ—社会教育の研究を考える—』学文社、2015 牧野篤『生きることとしての学び 2010年代・自生する地域コミュニティと共変化する人々』東京大学出版会、2014</p>		
7. 成績、評価方法・基準	記述式試験を実施。		
8・特記事項			

1. 授業科目名	発達障害児の行動と脳科学	
2. 担当教員名	麦島 剛	
3. 授業の概要	ADHD(注意欠陥・多動性障害)や自閉症などの発達障害児に対する療育は今日的な課題である。この授業では、まず発達障害を概観し、ADHDを中心にその行動特性を論じ、これに脳がどう関係しているのかについて、神経科学の最新の知見を紹介する。さらに、ADHD治療薬の神経薬理と、行動療法の原理と実際を紹介し、最後に、今後の療育で取り組むべき課題について、基礎研究者の立場から提案する。	
4. 到達目標	ADHDなどの発達障害の神経基盤、行動特性、薬物療法、行動療法を理解する。また、発達障害への科学的考察を通して見えてくる諸問題を批判的に考える。	
5. 授業内容・授業方法等	コマ	授業内容
	1	発達障害とは？ ADHDの行動特性。ADHDの神経基盤。ADHD治療薬とその神経薬理。オペラント療法を中心とした発達障害への行動療法。療育と研究における今後の課題。
		授業方法
		講義
6. テキスト・参考文献等	当日、図表を配布します。	
7. 成績、評価方法・基準	試験を行いません。試験問題は以下の通りです。 「発達障害について、自由に論じてください。講習での情報をまとめても構いませんし、ご自身の経験や意見を述べても構いません。」 ノート、書籍、論文等、全て持ち込み参照可。下書きを用意なさっても構いません。	
8・特記事項	ご多忙の折、時間と労力と受講料を割いて義務を果たされる先生方に敬意と共感を表します。この機会を逆に利用して、ぜひ大学と小中高を、研究と教育で結びかけを築きたいと思っております。当方からは学術上の情報をお示しますので、皆様からは、学校教育情報についてご提供頂けますと幸いです。	